

平成24年度臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：顎口腔機能治療部
研究期間：平成23年4月～継続中
研究課題名：ドライマウス患者における摂食・嚥下障害の改善に関する研究
研究課題の概要及び成果： <p>ドライマウス患者では唾液量が少なく、嚥下困難感を訴えることがある。本研究では、ドライマウス患者の摂食・嚥下障害の程度や改善方法を明らかにするため、嚥下内視鏡を用いて食塊形成機能を評価した。</p> <p>健常成人とドライマウス症例を対象として、当部で開発した内視鏡を用いた食塊形成機能評価を行い、その結果を比較した。評価は嚥下直前の嚥下閾に達した食塊を評価した。</p> <p>その結果、健常者では、粉碎度：0.8 ± 0.7、混和度：1.4 ± 0.8、集合度：1.8 ± 0.5であり、ドライマウス症例ではそれぞれ、1.0 ± 0.8、1.3 ± 1.0、1.5 ± 0.6であった。それぞれの項目で有意差は認められなかった。しかしながら、嚥下閾に達するまでの咀嚼回数は、健常者 21.7 ± 16.1（回）であったのに対し、ドライマウス症例では 43.8 ± 19.8（回）と有意に大きな値を示した。すなわち、ドライマウス症例では、嚥下閾に達した食塊は健常者と相違が無いものの、それに要する咀嚼回数が多く必要であることが示された。</p> <p>今後は被験者をさらに増やして検討していくとともに、ドライマウス症例で咀嚼回数が増える原因を明らかにしていき、その結果を用いて、ドライマウス患者の摂食・嚥下障害の改善方法を開発していく予定である。</p>
上記概要・成果に関連する図表等